

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700244		
法人名	医療法人 緑光会 野宮病院		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ふれ愛の家		
所在地	北海道岩見沢市5条東18丁目65番地		
自己評価作成日	令和3年1月19日	評価結果市町村受理日	令和3年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan_i=true&JivvosvoCd=0175700244-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和3年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ご家族との連絡を密に取り、信頼関係を築いている
- ・コロナ禍で面会禁止の中、常に入居者様の状況を伝え、安心して頂けるよう心掛けている
- ・入居者様ひとり一人の個性を大事にサービスを提供させて頂いています
- ・勉強会等を開き、スタッフ全員の質の向上に努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
		2 利用者の2/3くらいが			2 家族の2/3くらいと
		3 利用者の1/3くらいが			3 家族の1/3くらいと
		4 ほとんどつかんでいない			4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
		2 数日に1回程度ある			2 数日に1回程度
		3 たまにある			3 たまに
		4 ほとんどない			4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
		2 利用者の2/3くらいが			2 少しずつ増えている
		3 利用者の1/3くらいが			3 あまり増えていない
		4 ほとんどいない			4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
		2 利用者の2/3くらいが			2 職員の2/3くらいが
		3 利用者の1/3くらいが			3 職員の1/3くらいが
		4 ほとんどいない			4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
		2 利用者の2/3くらいが			2 利用者の2/3くらいが
		3 利用者の1/3くらいが			3 利用者の1/3くらいが
		4 ほとんどいない			4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
		2 利用者の2/3くらいが			2 家族等の2/3くらいが
		3 利用者の1/3くらいが			3 家族等の1/3くらいが
		4 ほとんどいない			4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が			
		2 利用者の2/3くらいが			
		3 利用者の1/3くらいが			
		4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ感染対策として地域の方々との交流は出来なかったが、それ以前は施設の行事に参加して頂く機会も増え、地域交流に努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	カフェを開催したり、近くのコンビニで買い物をして店内で休憩中に店員さんと会話したりすることも増えた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加頂いている町内会長に協力して頂き、施設行事の案内を回覧板で周知頂いたり、集会所にポスターを掲示頂いて地域の方々に行事に参加頂けるよう心掛けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催していたが今年は会議録を郵送している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加頂き、施設の取り組みや状況を認識頂きながら協力関係を築けるよう取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月毎に身体拘束廃止委員会を開催。身体拘束に係る講習会へ積極的に参加し、施設で報告会をしながら、スタッフ全員が身体拘束を正しく理解できるよう努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関わる外部研修に参加し、施設内で勉強会を開催、水平展開してスタッフの理解、認識を高めてゆくよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関わる外部研修に参加し、施設内で勉強会を開催、水平展開してスタッフの理解、認識を高めてゆくよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はケアマネが行い、見学、面談、質疑等を通じながら利用者やご家族の方に理解、納得頂けるようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱、運営推進会議、面会など様々な場面でご家族から意見や提案を頂きながら、可能な限り施設の運営に反映させている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者ミーティング、担当者会議を通じて、スタッフから意見、提案を聞き、行事や施設運営に反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従っているが、夜間など特に休憩の時間が取れていない事がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習の案内はあるが、今年はコロナ禍の影響のため、行くことができなくなっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	経営母体である病院の研修会、勉強会に参加していたが、コロナ禍のため、今は行っていない		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係各所より情報を提供して頂き、今までの暮らしを把握し、利用開始の段階では本人の言葉に耳を傾け、困っていること、要望等を気兼ねなく表現してもらえる関係作りに努めている		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始の段階で、家族の要望や不安に思っていることに耳を傾け、相談しながら信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始の段階で、本人と家族が必要としている支援を見極め、お互いが納得できるサービスの提供ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力が十分発揮できるよう、出来ること、出来ないことを見極め、職員と共に支え合いながら暮らせる環境作りに努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のより良い生活を目指し、家族と相談、協力しながら、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時は、居室でゆっくり会話して頂けるよう配慮している。長期間面会できない状態なので、手紙を書いて頂くことで関係が途切れないよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互い気づかい、協力、支え合いながら、楽しく生活できる環境作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時はフェースシートを活用して暮らしの情報を伝えている		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各自の日々の暮らし方、会話の中から、思いや希望、志向の把握に努めている		
----	---	--	-------------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に、本人、家族、関係各所に情報を提供して頂き、今までの生活状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に作業を行いながら、入居者様の能力や心身状態の把握に努め、記録や申し送りによりスタッフ全員と情報共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに重点を置き、ケアチームで意見交換しながら入居者様の能力が十分発揮でき、充実した生活が送れるよう努めている。また、本人やご家族の意向に沿えるよう介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護日誌にケアプランの実践状況や生活状況を記録。また、支援経過記録に、医療連携、家族連携、その他支援項目を記録し、スタッフ間で情報を共有しながらケアプランにも反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身の状況を日々観察し、変化してゆくニーズに対応している。家族や地域ボランティアにも協力してもらい、多様なサービスに取り組んでいるが、コロナ禍で今年度は実施できない部分もあった		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、今年度は地域資源との協働が規制のため行えなかった		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が経営母体の野宮病院の医師を主治医として毎週定期受診を受けている。また、在宅からの専門医受診も家族の協力で継続されている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調変化があった時は、昼夜、時間に関わらず経営母体の野宮病院の看護師や医師に対応頂いている。また、週1回、看護師により様子や体調を確認頂き、支援計画録に記入頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院する際は、治療や療養生活に必要な情報を本人、家族の承諾を得て提供している。また、退院の際は、入院先の病院から入居差様が安心して生活できるよう情報収集するなど連携を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	何度もご家族と話し合いの場を設けて、施設でできること、できないことを説明し、ご家族間で検討頂いた結果(方針)を関係者全員で共有している。また、体調の変化に応じて、適時話し合いの場をもち、本人、ご家族の意向に沿えるよう努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、医療面での応急手当は連携先の野宮病院看護師に対応頂いている。今年度はコロナ禍の影響で、各自DVDをみて確認したり、ZOOMを使った講習に参加した		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署に協力して頂き、火災、地震等を想定し、利用者が安全に避難できるよう防災訓練を実施している。また、災害時に必要な備品、食糧も十分に備蓄している		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常会話の中で、過去の生い立ちや家族の話をする機会が多い中、利用者の考え方や行動を理解することで、職員が共通の声掛けができています。また、排泄時の対応も常に個々に配慮しながら対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間や場所を問わず、自由に表現されており、職員間で情報を共有することでストレスなく生活できている環境を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	起床、食事、入浴、レクリエーションなど、利用者が自由に自分のペースで生活できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な身だしなみが保てるよう、適時声掛けをしながら、洗面、髭剃り、化粧などの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント食にはできるだけ入居者様の好まれる食材を取り入れている。また、入居者の力が生かされるような可能な作業を分担して行なうようにしている。不得手な食材は代替したり、提供方法を工夫しながら楽しく食事ができるように努めている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理や水分制限のある入居者もいらっしゃるもので、個々に見合った量で提供している。また、つめ込むように食事をされる方には、キザミ食、トロミ食とすることで飲み易くしたり、水分が数口ずつしか取れない方には24時間いつでも水分摂取可能なように対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、舌ブラシなどを利用して口腔ケアをして頂いている。朝・夕はマウスウォッシュの利用も加えて行っている。単独で行えない入居者様に対しては、スタッフが支援し、口腔ウェットティッシュで清潔に努めている。義歯の方には、義歯洗浄剤の利用を頂いている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方に合わせた排泄パターンを把握することで、トイレで気持ちよく排泄いただけるよう時間を見て、声掛けしている。(日中と夜中パットの容量を変えている方もいらっしゃる)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食餅繊維の多い野菜、きのこ類を多く接種できるようなメニューにしたり、腸内細菌の増える食品(なっとう、キムチ、ヨーグルト、麴)を取り入れている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週3回入浴を基本としている。ご本人の体調やバイタルに合わせて、その都度調整している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のその日の体調に合わせて、休息されたり、居室で書きものされたりしていただいています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表は個別ファイルに保管し、薬変更時は支援経過記録に記載し、スタッフ間で共有している。副作用と思われる症状が現れた際は、看護師への連絡、医師の受診を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作業や花が好きな入居者様は、ウッドデッキの鉢に野菜や花を植え、世話をしましめられているが、今年はコロナ禍で行えなかった。施設内では、裁縫が好きな方に繕い物をお願いしたり、チラシでゴミ箱折るのが得意な方は、他の方に教えながらひとり一人役割をもって生活して頂いている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のコンビニへ行き、イトインコーナーで食事をしたり、道の駅や紅葉を見に出かけたが、今年はコロナ禍で外出支援は中止となった		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を所有し自由に電話が利用できる環境にある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があるので好きな時に電話を掛けたり、ご家族様や大切な人からも電話がきてやりとりされている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春夏秋冬に合わせた壁飾りや掲示物を作り、季節に合わせた明るい空間作りに心掛けている。生き物や花を育てることで、心の癒しになるよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクで集まる時は、イスの配置を移動して楽しめるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室になっており、休んだり、テレビを観たり、日記を書いたり、思いおもしろい好きなことをして過ごせるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋にひとり一人に合わせ手スリを設置したり、場所が判り易いよう案内板を設置している		